

空飛ぶクルマと救急医療搬送

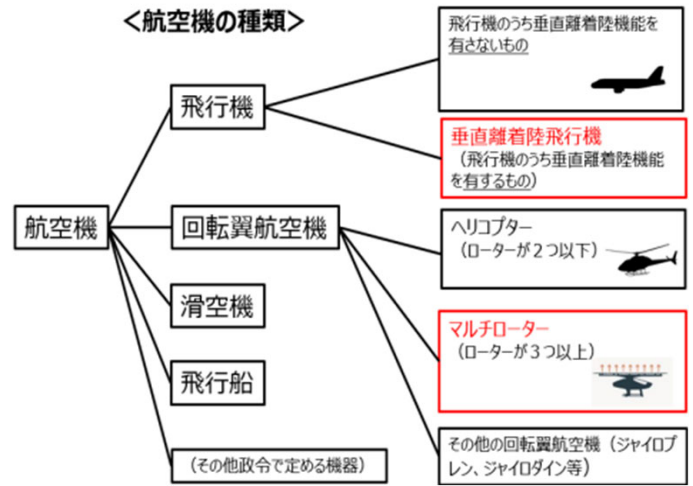
2025年大阪・関西万博後の次世代モビリティ

今月は、2025年大阪・関西万博で出展予定の「空飛ぶクルマ」について、省令改正や商用化に向けた動き、医療搬送分野のeVTOL開発状況等について最新情報をご紹介します。

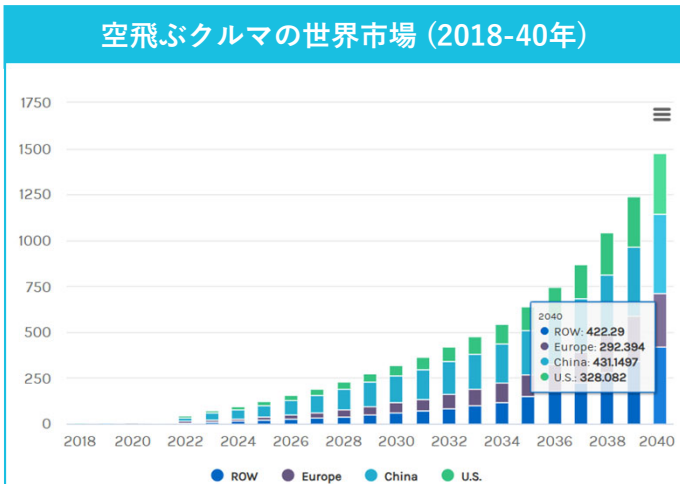
■ 空飛ぶクルマとは？

「空飛ぶクルマ」は①**電動**、②**垂直離着陸**、③**自動操縦の3つの特徴**を備えた航空機で、現行の航空法施行規則で対応できないことから、国土交通省は令和5年12月施行の「航空法施行規則の一部を改正する省令」で「**垂直離着陸飛行機**」、「**マルチローター**」と規定。ヘリコプターと異なり、内燃機関を用いず電動機（CO²フリー）で駆動、多数のプロペラを使用し、「静音性」・「低運航コスト」・「垂直離着陸」の特性を備えていることから、従来建設困難で

あった場所に飛行場「パーティポート」を整備する事が可能です。こうしたことから、渋滞解消、環境負荷低減効果のある次世代モビリティとして期待されています。



(出所) 「空飛ぶクルマに関する制度整備の概要」(国土交通省)(2024年4月)



(出所) Are Flying Cars Preparing for Takeoff (Morgan Stanley) (Jan 2019)

■ 2040年「1.5兆米ドル」の世界市場へ

Morgan Stanley の調べによれば、空飛ぶクルマの世界市場は2040年に約1.5～2.9兆米ドル (約240～460兆円) (1米ドル=160円換算) の規模に達する見込みです。

■ 米国2社が商業運航認可を取得

空飛ぶクルマを国家戦略と位置づける米国では、2022年にトヨタ自動車出資のJoby Aviation社が、2024年6月にはArcher Aviation社が、米国連邦航空局 (FAA) の商業運航認可を取得しています。日本では、

スカイドライブ社が国内外から250機以上の事前予約を確保しています。

■ 空飛ぶクルマと救急医療搬送

日本政府工程表では2030年代に医療搬送分野での実用化を盛り込んでおり、朝日航洋 (トヨタ自動車の99.9%子会社) が米国Joby Aviation社のeVTOLの活用検証を開始する予定です。欧州勢ではAirbus社や英国Vertical Aerospace社等が「CityAirbus NextGen」や「V4X」等の同分野でのeVTOL開発を進めており、開発競争は激化しています。

ITCは「公共性」・「社会貢献性」の高い航空機リース事業を法人・個人の投資家様にご提供して参ります。ご関心をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。